

第10号 かめい歯科通信



だんだん暖かくなり過ごしやすい季節になりましたね。
3月は卒業式など別れの季節でしたが…4月からはいよいよ新生活が始まります！！
新生活の準備は順調でしょうか？この機会にお口のケアもしてみませんか？
お口の中をキレイにして、新しい自分で新生活をスタートさせてくださいね！！



こんなに
いろいろ

歯の つめもの かぶせもの

に使われる素材

歯は一度削ってしまうと、元に戻ることはありません。歯を修復するために「つめもの」や「かぶせもの」を作る必要があります。実はこれらにはいろいろな素材があり、成分などで細かく分類すると何十種類以上にも！そこで、代表的な素材の種類と特徴を解説したいと思います。



プラスチック

加工がやすく、安価で製造できます。しかし、プラスチックのお皿で想像できるように、着色しやすかったり、傷や摩耗に弱く、雑菌を引き寄せるといった弱点があります。



セラミック

お皿でおなじみの「陶材」を歯科用に強化したものです。お皿の表面がピカピカしているのと同様、白くて美しい色と透明感があります。プラスチックと比べると、その質感の差は小さくなく、「自然の歯よりも美しい」と感じる方もいるほどです。ただし、強い衝撃に弱く、制作費がかかるといった面もあります。



ゴールド

見た目は白くないので前歯には使えませんが、柔軟性があり、精度高く、自分の歯にぴったりと装着できます。自然の歯と同じくらいの硬さなので、周りの歯を痛めるリスクも最小限。しかも、金属アレルギーになりにくいという特徴もあります。ただし金ですので材料費が高くなります。



ジルコニア

セラミックは強い衝撃に弱いため、それを補うために金属をベースにしてその上にセラミックを焼き付けるという方法があります。しかしこれでは内側の金属が黒く影になってしまい、美しさが半減。そこで近年、金属の代わりに使われているのが、真っ白でとても硬いジルコニアです。ジルコニアをそのまま使うこともできますが、透明感が全くないため表面にセラミックを焼き付けるのが一般的です。また、材料・製作に費用がかかります。



こちら以外にも、保険診療で使われる「金属パラジウム合金」（いわゆる銀歯）、セラミックとプラスチックを混ぜた「ハイブリッド」、ゴールドとプラチナでできた「白金加金」など様々なものがあります。それぞれ特徴をもった素材ですので、つめものやかぶせものを作製する際はじっくり考えて決めましょう！ご不明な点はいつでもご相談ください。

こんなに
抜けちゃうの？

年齢別 歯の抜ける本数



歯は平均寿命60年！

歯は一生使えるものではありません。調査によればその平均寿命はおよそ60年。日本人の平均寿命が約80歳以上ですから、多くの方が亡くなるまでに何本かの歯を失うこととなります。ではどの年齢でどのくらいの本数を失っていくのでしょうか？

60代から加速する

さらにしっかりケアしていかないと、ますます歯を失うことに。
そのスピードは早まり、60代では約3本、70代ではなんと5.5本以上失います。
さて、ここまでの合計は何本でしょうか？
ざっと計算すると
40代1.5本+50代2.5本+60代3.0本+70代5.5本
=12.5本

歯は親知らずを除き全部で28本しかありません。
つまり80歳になるまでに半分近くの歯を失うことになるのです。



40代で初体験

若い頃は歯が抜けるなんて想像もしなかった。そんな人達も40代になると『歯を失う』という初めての経験をし、平均で1.5本失います。そして50代ではさらに2.5本程度の歯を失う。つまりここまででおよそ4本の歯を失っています。



どうすれば
守れる？

歯を失う一番の原因は歯周病。次にむし歯です。その他にも噛み合わせ、ケガなどでも歯が抜けてしまいます。ケガはやむを得ないとしても、歯周病、むし歯、噛み合わせなどは確実に予防ができます。歯科での定期検診やケアの指導などにより、多くの方が80歳以上でも20本以上の歯を残しています。一生健康で美味しい食生活を送るためにも、悪くなった時だけでなく、ぜひ定期的に歯科でチェックを受けましょう！



当院のホームページでは随時ブログ更新をしており、お口や健康についての情報を発信しておりますので是非ご覧ください♪
臨時休診日なども掲載しております

名張市
かめい歯科クリニック

検索

